

# 伝統的構法の木造建築物に係る確認審査等の状況について

---

## 1. ヒアリング調査概要

7月13日～7月27日に行った78特定行政庁へのヒアリング調査(資料2の調査と同じ)において、伝統的構法の木造建築物(限界耐力計算で構造計算したもの)に係る確認審査等の状況についてもヒアリングを実施。

## 2. ヒアリング調査結果の概要

### ① 78特定行政庁による伝統的構法の木造建築物(限界耐力計算で構造計算したもの)に係る建築確認の実績

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度 (H22.7.1時点)	事前相談を 受けている件数 (H22.7.1時点)
件数	6	0	3	0	0

【参考】平成21年度における全国の特定行政庁での建築基準法第1項第一号～四号の確認申請件数 約11万件 ※計画変更は含まない。  
ヒアリング対象の78特定行政庁での同件数 約2.3万件(上記件数の約21%)

### ② 伝統的構法の木造建築物(限界耐力計算で構造計算したもの)に係る確認審査が難しい理由の例

- ・伝統的構法の木造建築物に対する知識を深めたり、実際に建物そのものを見たりする機会が乏しいため、審査担当者の伝統的構法の木造建築物に対する知識が十分ではない。また、これまでに伝統的構法の木造建築物の審査経験が無い。
- ・伝統的構法の木造建築物に係る具体的な基準や指針が整備されておらず、判断が難しい。
- ・具体的な計算事例や、計算で使用する採用値の妥当性の確認ができる資料が乏しいため、計算内容の確認が難しい。
- ・限界耐力計算に係る構造審査が難しい。
- ・複雑な骨組みの場合、モデル化に高度な工学的判断が必要となり、その妥当性の判断が難しい。